

パートナー登録・紹介制度 活動レポート(その1)

通算第1号
2023.6.19 発行
(新潟ろうきん福祉財団)

オンラインセミナーから繋がるクラウドファンディング導入サポート

2022年12月からスタートした「パートナー登録・紹介制度」は、弁護士、税理士、社会福祉士等の士業や、デザイナー、ファシリテーター、ファンドレイザーなどの専門家、県内の実践者、当財団のこれまでの助成事業選考委員などにパートナーとして登録いただいています。本制度の利用第1号となられた、パートナーの多田朋孔さんと活用されたNPO法人十いろ（といろ）の高橋愛さんから、活用のきっかけから具体的な内容や有益だった点について、オンラインでお話を伺いました。今回は、その内容をレポートします。

多田さんは中山間地域でのまちづくり活動に、高橋さんは地域福祉活動に、それぞれ分野は異なりますが、同じ十日町市内で取り組まれていらっしゃいます。互いの接点はこれまであったのでしょうか。

(多田) 地域内でのイベントや行事でお会いすることもあり、顔と名前は知っていましたが、それほど深い関係性ではありませんでした。

(高橋) 活動分野が違うということもあり、互いの存在はもちろん知っていましたが、今回のような接点ではなかったです。

互いに顔と名前は知っている関係だったお二人が、今回のパートナー登録制度を活用して、マッチングに至ったきっかけはなんだったのでしょうか。

(高橋) 2, 3年前から、クラウドファンディングには興味があり、情報収集はしていました。NPO法人十いろとして、これまで取り組んできた「成年後見制度」に加え、身よりのない方の老後や死後をサポートする「終活サポート」を行いたいと考え、終活プロジェクトや理事会などで議論し、仕組みを構築するために「信託会社」と契約することを決断しました。そのため費用として、クラウドファンディングを活用することにしました。巷にあふれているクラウドファンディングの中から、GIVING100を選んだものの、はじめてのことで、スタートにあたってとても不安を感じていました。

そんなときに、ろうきん福祉財団のオンラインセミナーで、テーマがクラウドファンディングだったことから、不安感が少しでも払拭できるならと、受講しました。

(多田) セミナー当日は、高橋さんをはじめ参加者のみなさんが非常に積極的で、私が体験した事例について、つっこんだ質問もあり、自分自身も気づきを得ることができました。セミナー終了後に、高橋さんから、切羽詰まった相談のメールをいただき、同じ地域で活動する者として、お手伝いしたいと思い、私からろうきん福祉財団へ連絡をしました。



高橋さん（左上）と多田さん（下）の豊富な話題に、オンラインインタビューながら、和やかな雰囲気が進みました。

高橋さんのスピード感と具体的にどのようなことで困っているのかが明確だったこともあり、非常にスムーズに進んでいったと認識していますが、連絡の頻度や方法を教えてください。

(高橋) 時系列にすると下記の通りですが、今、振り返ってみるとタイミングがよかったことや、多田さんからのきめ細やかなサポートや、ろうきん福祉財団からの諸条件に関する回答が素早かったということを感じます。

(多田) 高橋さんも私も多忙であることから、電話でのやりとりはあまりせず、連絡はメールでした。オンライン相談も想定したのですが、同じ十日町市ということもあり、訪問して、対面での相談は2回行いました。

(高橋) 投稿する原稿確認や写真の選定に加え、多田さんからは、日ごろから SNS などを活用した情報発信の大切さや記録の残し方などクラウドファンディングだけでなく、活動に役立つ実践的なアドバイスも受けることができました。

日時	内容
2月27日	オンラインセミナー開催。終了後に、高橋さんから多田さんに相談依頼メールを送信。
2月28日	多田さんから、ろうきん福祉財団にパートナー登録・紹介制度を活用したい旨の連絡があり、諸条件を確認するためのメールを複数回行き、第1号の利用をスタート。費用は、助成金の科目変更することで、決定した。 同日、多田さんのアドバイスを受け、NPO 法人十いろの公式 Facebook にてクラウドファンディングに取り組むことを初めて投稿する。
3月9日	多田さんと高橋さんとで、何度かのメールやりとりを行い、同日、多田さんがNPO 法人十いろの事務所を訪問し、相談。
3月13日	再度、多田さんが事務所を訪問し、相談。
3月15日	多田さんからのアドバイスを受け、クラウドファンディングページの先行公開を行う。
3月18日	クラウドファンディングを開始。同日、NPO 法人十いろが主催した「終活サポーターセミナー」に多田さんが参加者として聴講。
3月19日	多田さんが自身の Facebook で、セミナーの内容にふれながら、クラウドファンディングについて投稿する。
3月27日	多田さんが自身の Facebook で、2回目の投稿をする。

お二人にとって、パートナー登録・紹介制度の活用は有益なものだったということが、お話を伺って感じ取れました。これからも他の助成団体のみなさんが活用するためには、財団としてどのようなことが必要でしょうか。

(高橋) 今回、多田さんからサポートを受けられたきっかけは、2月のろうきん福祉財団主催のセミナーでした。財団のサイトに、パートナーのみなさんのプロフィールが公開されているものの、セミナーを通じてお人柄や得意分野を詳しく理解することができると感じました。ぜひセミナーは継続して開催してもらえることを願っています。

(多田) 今日のインタビュー内容がレポートになって、ろうきん福祉財団のウェブサイトに公開されるということで、楽しみにしています。ただ、ウェブサイトに掲載しただけでは、広がりなくと思いますので、助成団体が集まる交付式や中間報告会といった場面で配付するなど情報がしっかりと届くところまで、取り組んでもらえたらと期待しています。また、昨年と同じテーマでも毎年、助成団体は変わっていきますので、今年度もセミナー講師などを通じて、お役に立てることがあればお声がけください。

パートナー登録・紹介制度について

新潟ろうきん福祉財団では、これまで、「NPO 等助成事業」や「地域社会創造助成事業」の採択団体で、事業期間中に「計画を進める中で、自分たちだけでは解決しにくい課題が生じ、専門家を財団から紹介してほしい」という相談ニーズが寄せられることがありました。

また、団体自身は課題に気が付いていないが、助成選考委員が中間報告や現地訪問などで察知し、専門家やアドバイザーを紹介することもありました。

助成団体が目指したい姿や成果を達成するために必要となるであろう専門家や実践者からのアドバイスや知見・ノウハウなど財団が暗黙知で行っていたことを、きちんとした仕組みにし、今後もコーディネートしていく必要があると考え、本制度を立ち上げました。

2023年4月現在、15名の方からパートナーに登録いただき、ご本人のプロフィールを含め、当財団のウェブサイトで公開しています。

2023年度は、さらに数名のパートナー登録を増員し、多様な相談に対応できるよう体制を強化していく予定です。

財団のホームページで掲載している
パートナーのみなさん



編集後記 (とみさわ)

年度始まりの慌ただしい時期にもかかわらず、お二人から1時間程度お話を伺いました。お二人の良好な関係があったため、インタビューは終始笑いの絶えない時間となりました。途中、多田さんのバズった動画のエピソードや、高橋さんから成年後見の豆知識などインタビューの特権を楽しむことができました。